

査も実施したが、事前調査に加える所見もなかった。

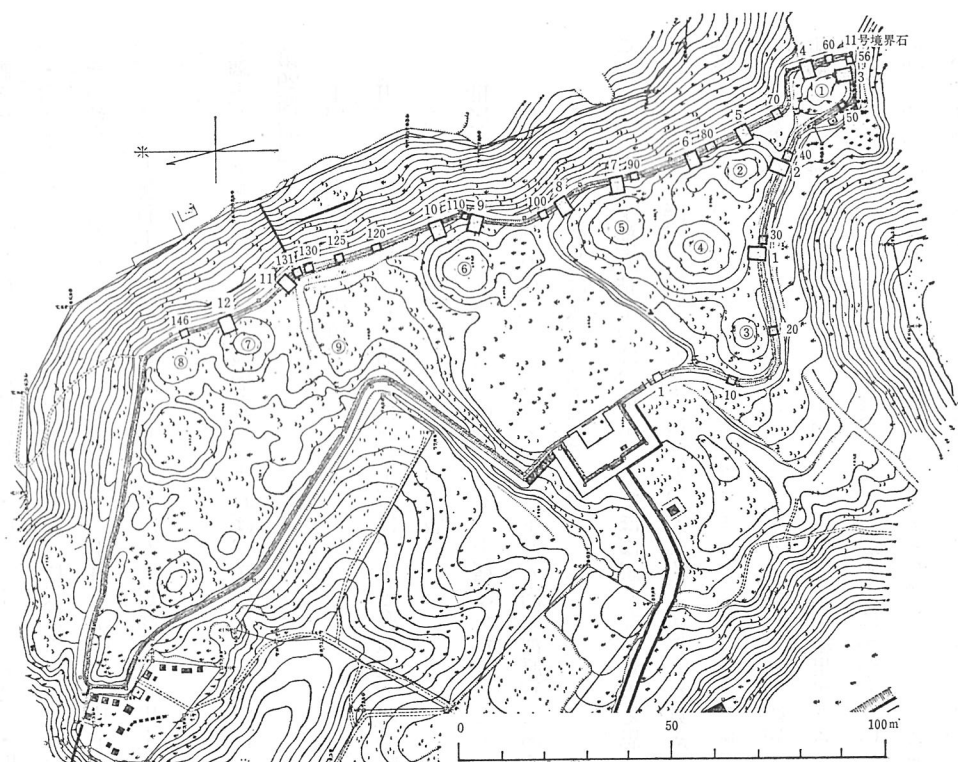
(笠野 毅)

鳥戸野陵外構柵設置工事区域の調査

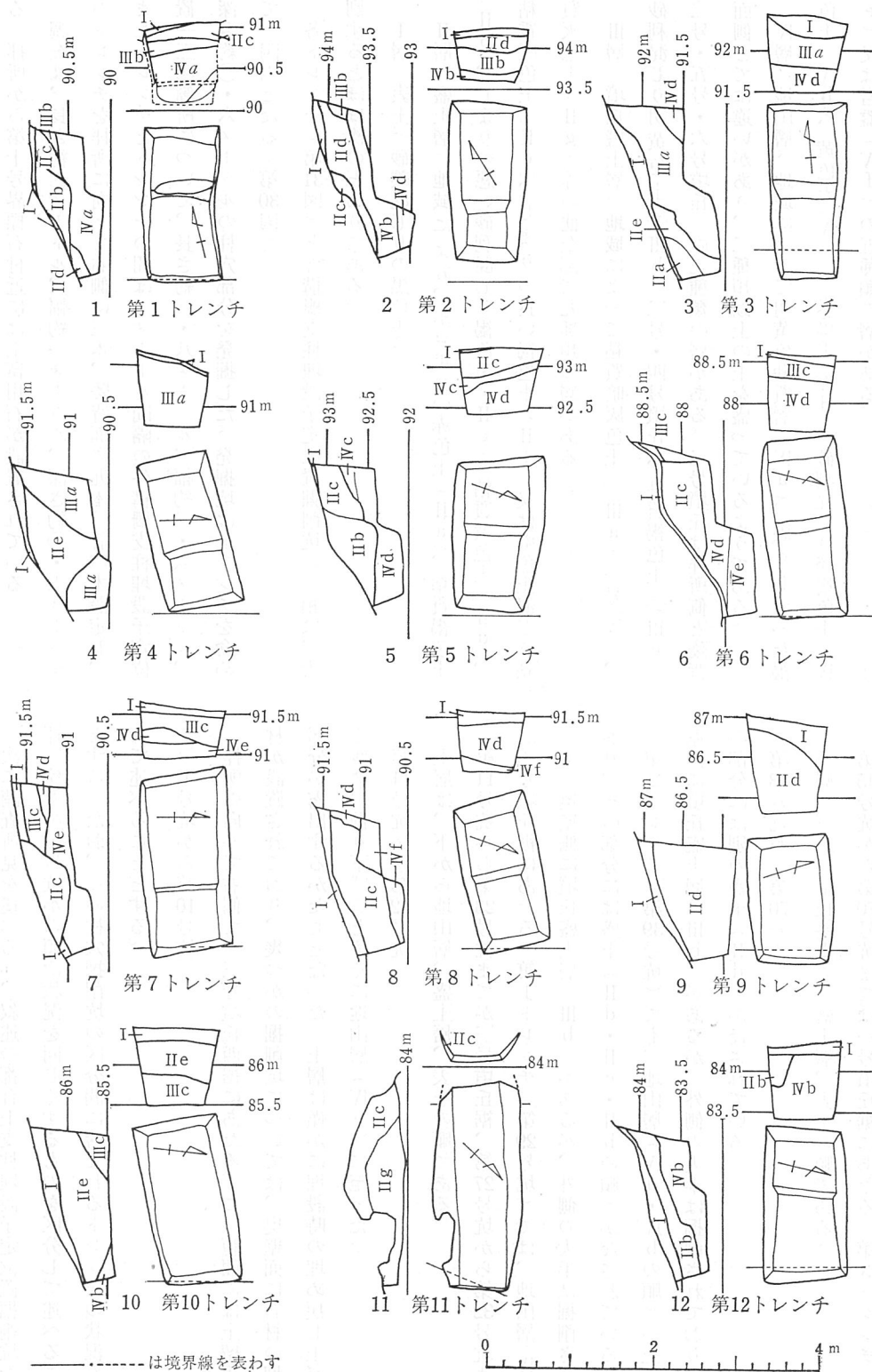
一条天皇皇后定子の鳥戸野陵陵前拝所の向って右側と、第11号界標を境にしてこれに続く陵背面延長二九四メートルの外周に、昭和五十四・五十五年年度に外構柵設置工事をする事になった。

工事区域は明治十二年四月の「藤原定子鳥戸野陵并御火葬所調書」所収の図面に示された城内一六基の墳丘のうち、調査区域外の八号を除く一号から九号までの八基の墳丘に隣接している。この地は昭和五十二年九月に葬地「鳥戸野遺跡」に包含されることが公示されたので遺構・遺物の有無を確認するため、昭和五十四年十二月十日から二十二日まで十二日間にわたって発掘調査を実施した。

工事区域の地形は東山の裾からのびた尾根状の小丘陵上に位置し、最も拝所に近い三号墳丘付近が低く、四・二号墳丘付近の順で徐々に高まり、二号墳丘付近から一号墳丘付近にかけては比較的平坦である。陵背面では一号墳丘から七号墳丘方向に次第に低くなる。各墳丘の間は緩やかな傾斜を示す。周囲には幅一メートルから二メートル程の巡回路が巡り、その外側は拝所付近を除いた拝所右側の範囲では一段テラス状の平坦部を有し、その先が急斜面となり、陵背面ではそのまま急斜面にな



第30図 鳥戸野陵トレンチ・掘削坑位置図(トレンチ・掘削坑は拡大して記入)



第31図 鳥戸野陵トレンチ平面および断面図 (1/80)

る。拝所から第十号界標石付近には土留用石が設置されている。

調査は、長さ約二メートル、幅約一メートル、深さ約〇・六メートルのトレンチを拝所に向って右側に三本、陵背面に九本、計三本設定し、またトレンチとトレンチの間は二メートル間隔の外構柵支柱埋設予定位置一三四箇所について、長さ約〇・八メートル、幅約〇・六メートル、深さ約〇・六メートルの柱穴部分を発掘した。発掘坑はトレンチを含めて一四六となる（第30図）。

各トレンチ（第31図）と外構柵支柱埋設予定位置掘削坑の土相は、大別するとほぼ次のとおりである。

I層 表土。砂礫混じりの黒色土。

II層 盛土層。地域により、ボロボロの赤色土（II a）、粘質褐色土（II b）、しまりの悪い砂利混じり褐色土（II c）、粘質黄色土（II d）、粘質灰色土（II e）、しまりの良い褐色土（II f）又は橙色土混じり粘質灰色土（II g）等の他全部で九種類の層がある。

III層 墳丘盛土層。地域によって粘質暗灰色土（III a）一号墳丘、砂利混じり明黄色土（III b）二号・四号墳丘、粘質褐色土（III c）二号・五号・六号墳丘の三種類の層がある。二号墳丘は拝所側と陵背面側とは違いがあり、二種類以上の土を盛っているようである。

IV層 地山層。地域によって明黄色砂質層（IV a）、硬くしまった褐色土（IV b）、黄色土（IV c）、灰色土（IV d）、砂利混じり淡褐色土（IV e）又は岩盤（IV f）の五種類の層がある。

次に調査所見を述べるが、叙述の都合上支柱埋設予定位置掘削坑を御拝所傍の第1号坑から順次状況を同じくするものを区分して述べることにする。なお、この柱穴掘削坑の区分間に含まれるトレンチの状況も併せて述べることにする。

第1号坑から第10号坑

拝所の向って右側で、三号墳丘西裾にあたる。この範囲には土留用石材が設置されており、幾つかの掘削坑については、奥壁面に石材の埋設部分が露出するかたちとなった。土層は僅かに埋設時の埋め戻し土がある他は、掘り下げるとすぐに地山層（IV e）に至った。

第11号坑から第42号坑

土層は、下から地山層、盛土層、表土の順である。

第11号坑から第23号坑までが三号墳丘裾、第27号坑から第32号坑までが四号墳丘裾にあたる。第1トレンチ（第29号坑）では、地山層（IV a）の上の奥壁側に墳丘盛土層（III b）があるが、外側の大半は掘削されており、その部分には盛土（II d・II c・II bの順）がなされている。

第2トレンチ（第39号坑）でも、地山層（IV d・IV bの順）の上の奥壁側に墳丘盛土層（III b）があるが、外側の大半は掘削されており、その部分には別の盛土（II d）がなされている。

第43号坑から第70号坑

土層は下から墳丘盛土層、盛土層、表土の順である。

第45号坑から第70号坑までは一号墳丘裾にあたる。第3トレンチ（第

55号坑)では、奥壁側に地山層があり、その上の墳丘盛土(Ⅲa)上には別の盛土がある。第4トレンチ(第63号坑)は墳丘盛土(Ⅲa)が削られ、粘質灰色土が盛られている。

第71号坑から第74号坑

一号墳丘と二号墳丘の間にあたる。土層は下から盛土層、表土の順である。

第75号坑(第5トレンチ)から第113号坑

土層は下から地山層・盛土層・表土の順である。

第75号坑から第82号坑(第6トレンチ)は、二号墳丘裾にあたる。

第5トレンチ(第75号坑)では地山層(Ⅳc)の上に盛土(Ⅱc・Ⅱbの順)がなされている。第6トレンチ(第82号坑)では、地山層(Ⅳc)の上の奥壁側に墳丘盛土(Ⅲc)があるが、大半は掘削され、その部分には別の盛土(Ⅱc)がなされている。

第90号坑から第99号坑は五号墳丘裾にあたる。第7トレンチ(第91号坑)では、地山層(Ⅳe・Ⅳdの順)の上の墳丘盛土(Ⅲc)は大半が掘削され、その部分には別の盛土(Ⅱc)がなされている。第8トレンチ(第97号坑)は、第5トレンチと同様である。

第102号坑から第113号坑は六号墳丘裾にあたる。第100号坑の地山層はⅣeである。第9トレンチ(第109号坑)では盛土層(Ⅱd)が厚く盛られ、上には表土があるだけである。第10トレンチ(第112号坑)では、巡回路側に地山層(Ⅳb)があり、奥壁側に墳丘盛土(Ⅲc)が盛られている。

る。両層ともトレンチ中央下方に向って傾斜しており、上には別の盛土(Ⅱe)がなされている。

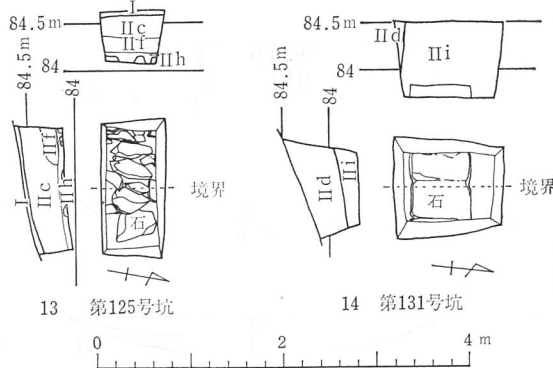
第114号坑から第136号坑

土層は、下から盛土層・

表土の順である。第114号坑から第132号坑は、九号墳丘裾を巡る溝と巡回路の間の土堤部分にあたる。第125号坑(第32図)の盛土層(Ⅱf)や第11トレンチ(第132号坑)の盛土層(Ⅱg)の上にはしまりの悪い砂利混り褐色土(Ⅱc)が盛られている。第130号坑の地山層は岩盤(Ⅳf)である。第131号坑(第32図)の盛土(Ⅱd)は、再度の攪乱を受けている。

第137号坑から第146号坑

土層は下から地山層・盛土層・表土の順である。第137号坑から第142号坑が七号墳丘裾にあたる。第12トレンチ(第140号坑)では、地山が南壁側で、全体的に削られた後、盛土されている。



第32図 鳥戸野陵掘削坑平面および断面図 (1/80)

調査の結果、第1～4・6・7・10トレンチと第43号～第70号掘削坑から墳丘盛土が、第1トレンチと第125号・第131号両掘削坑から遺構が検出された。

第1トレンチ内中央地山層(IVa)に、長径○・七メートル・短径○・一五メートル、深さ○・二メートルの細長い掘込みがあり、中から少量の砂粒を含むボロボロした炭化物が検出された。本来は上の層から掘り込まれていたと考えられるが、上層は掘削後の盛土であるため、どの層から掘り込まれていたか確認することはできなかった(第31図)。

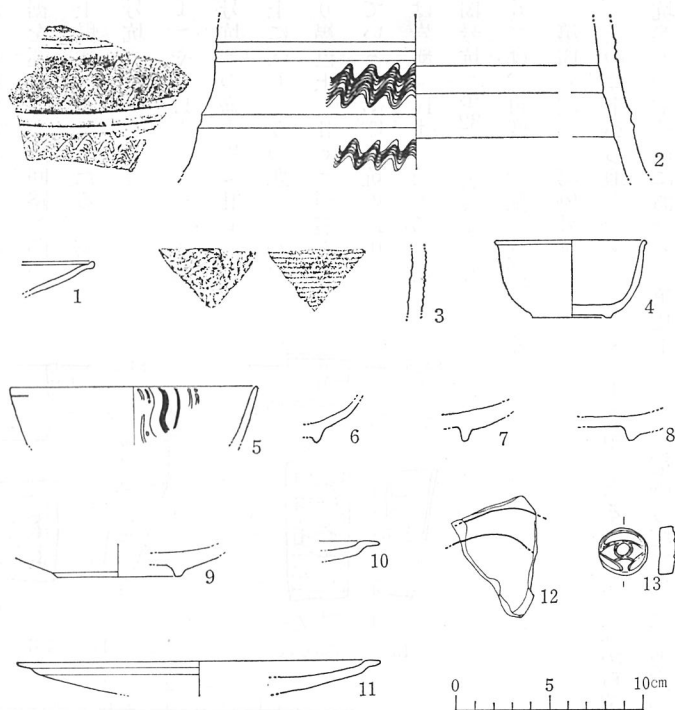
第125号坑内底面からは、長径約四〇センチ前後の割石を用いた石列を検出した。また、第131号坑内底面からも、長径七五センチ、短径六五センチ、厚さ一三センチを測る長方形の板石を検出した(第32図)。第30図によると本坑の直下には土堤内側の溝から土堤と巡回路の下を抜ける排水用の暗渠が通っていることになっており、この暗渠に伴うものではないだろうか。

以上の三箇所については工事に際し柱の位置を変更し、その他の部分については、当初の予定通り工事を実施した。

今回の調査による出土遺物は、第6・第8・第9・第10・第12の各トレンチと第17号・第65号・第77号・第123号・第139号・第141号の各掘削坑から土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦・泥面子・その他合わせて総数三十一点が出土したが、いずれも破片である。器形の判るもののみを第33図に示した(図版四1)。

土師器

皿(1)第10トレンチ墳丘盛土層(IIIc)出土。口縁部破片で、器厚は薄く、外反ぎみにのびて端部は僅かにたちあがる。外面には布あるいは指によると思われる整形痕が残存する。焼成はやや悪く、色調は薄い赤褐色を呈する。



第33図 鳥戸野陵出土遺物実測図 (1/4)

須恵器

器台(2) 第10トレンチ盛土層(Ⅱe) 出土。脚部破片で、外面には突出度の低い凸帯を巡らし、その間に櫛描波状文を施している。

甕(3) 第12トレンチ表土出土。胴部の破片と思われ、外面には平行叩き目文・内面には同心円文が認められる。

磁器

碗(4~6) 4は第9トレンチ盛土層(Ⅱd) 出土。高台部は低く、底部は丸味をもち、胴部は垂直に近い状態で開き、口縁部に至る。外面には、釉鱗が認められる。地色は白色を呈する。5は第10トレンチ盛土層(Ⅱe) 出土。口縁部破片で、外面には横線・内面には縦縞の染付文様が施されているが、小片で詳細は不明。6は第12トレンチ盛土層(Ⅱb) 出土。高台部から底部にかけての破片で染付文様が施されている。高台部外面では二本の横線を表わし、底部内面のものとは不明瞭である。

皿(7~11) 7・9は第12トレンチ盛土層(Ⅱb) 出土。二点とも高台部から底部にかけての破片で、内面に染付文様が施されているが、小片で詳細は不明。8は第14号坑内盛土層(Ⅱb) 出土。高台部から底部にかけての破片で、内・外面に、釉鱗が認められる。地色は白色を呈する。10は第13号坑内盛土層出土で、口縁部破片。11は第14号坑内盛土層(Ⅱb) 出土で、口縁部から体部にかけての破片。二点とも彎曲して広がり、端部で水平に外方へ延びる。地色は白色を呈する。

瓦(12) 第14号坑内盛土層(Ⅱb) 出土。棧瓦の一部分で内・外面と

ものに縦の篋磨き痕が残存する。断面は弧状となっている。二次焼成を受けており、赤味があった灰白色を呈する。

泥面子(13) 第9トレンチ表土出土。赤色素焼の円形で、直径二・六センチ、厚さ〇・八センチを測る。表面には型押しによる扇の模様が描かれている。

この他、トレンチと掘削坑から次の出土品がある。

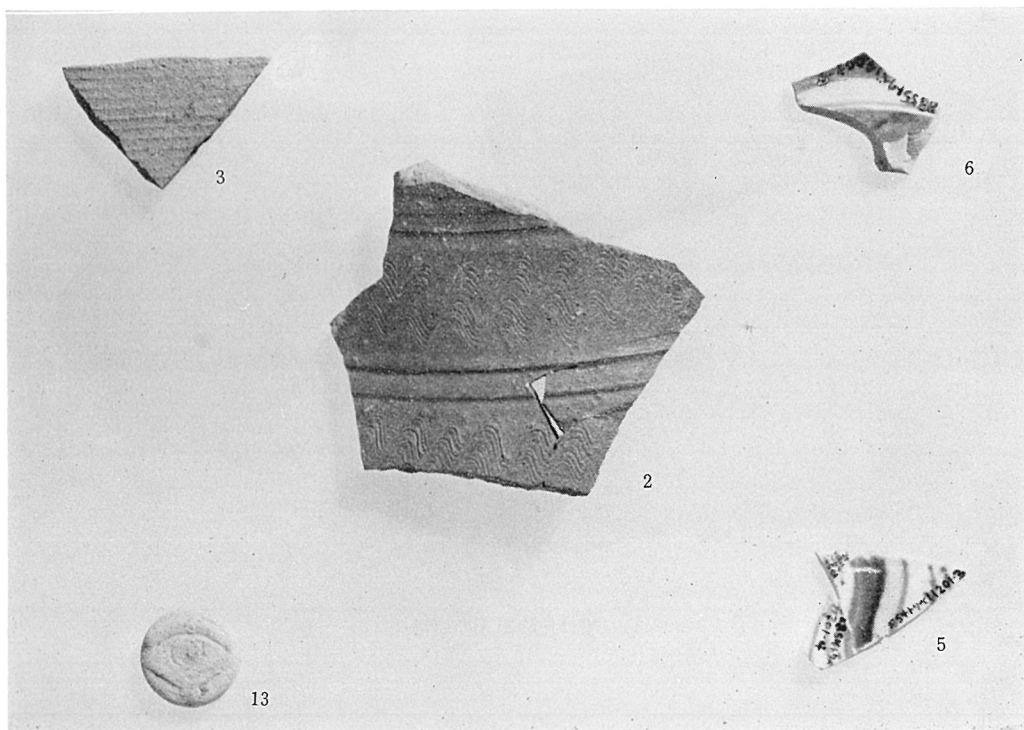
第17号坑内盛土層から須恵器片一点、第65号坑内表土層から陶器片・磁器片各一点、第77号坑内盛土層(Ⅱd) から原形不明の遺物一点、第6トレンチ盛土層(Ⅱc) から瓦片一点、第8トレンチ表土から陶器片一点、第10トレンチ盛土層(Ⅱe) から磁器片五点、赤色素焼の原形不明遺物一点、第123号坑盛土層(Ⅱb) から土師器片一点、第12トレンチ表土から陶器片・磁器片、盛土層(Ⅱb) から陶器片・磁器片・瓦片各一点。

(佐藤利秀)

大光明寺陵駐車場取設工事区域の調査

大光明寺陵参道入口、市道に面した約三三平方メートルに、新しく駐車場を設置することになった。当該地は遺跡「伏見城跡」に含まれるので、事前に発掘調査を実施した。

光明天皇陵以下二陵一墓のある当陵墓地は、伏見城の外郭をなす武



1. 鳥戸野陵 トレンチ出土遺物



2. 大光明寺陵 方形土坑